

校長室より

第53号

「天空高き」



平成25年11月28日

挨拶週間と無遅刻無欠席週間 11/11～11/16

あいさつは自分の心をひらく一歩です。
あいさつは あかるく いつも さきに つづ
けて と、お願いしています。

あいさつは自分の人生を切り拓く一歩です。
いつでも、どこでも、だれにでも、自分から
明るく元気な挨拶をよろしくお願いします。

また、今回は無遅刻無欠席週間でした。

達成クラスは、中1-1、中3-1、中3-2
S2-2、F1-1、F1-4、F3-1でした。
おめでとうございます。

イチロー選手は毎日の小さな目標を継続することによって、大きな目標を達成する天才です。いつも耳にタコができるくらい繰り返していますが、当たり前のことを当たり前前に続けることにより、やがて本物になり、運を引き寄せることができると思います。

家庭や学校の朝のスタートで、「おはようございます」と元気なあいさつで一日を始めましょう。



心のふるさとがある素晴らしさ～岩徳線からの車窓～



先週の勤労感謝の日に所用で、久しぶりに玖珂駅から岩徳線に乗車しました。

途中何気なく列車内の様子を見渡すと、何か違う雰囲気を感じました。

よく見ると、老若男女問わずほとんどの乗客の皆さんが、車窓からの景色を眺めていることに気がつきました。

緑色を基調に黄色や赤色に色付いた山々を背景に、たわわに実った柿の木。鉄橋を渡るときにふと下を見れば、錦川の水が青く澄みわたり、大きな銀色と赤みを帯びた

大きな二匹の鯉が、悠々と泳いでいるではありませんか。そして川岸のあたりで群れをなす鴨。次々に車窓から写し出される晩秋の景色に、私も見入ってしまいました。

岩徳線に乗車していた小、中、高校生たちや年輩の方々の心に、共通の故郷の原風景としてこの風景があるのではないかと、思ったひとときでした。

本校卒業生による講演

租税教室 税理士 山本 修 様

本校のPTA 会長として大変お世話になっていますが、山本会長は岩国地区で税理士としてご活躍されています。

今回は、岩国管内租税教育推進協議会事務局より派遣されて、普通科3年生を対象に講演されました。

目的は、私たちが、健康で豊かな生活をおくるために使われている税の意義や役割を知ってもらうことでした。

ジュラルミン製のケースを持参され、その中には一億円の現金（見本）が入っていました。一万円札で一億円がどのくらいの重さになるのか、生徒に実際に持たせて税金について興味・関心を持たせながらの熱演でした。ありがとうございました。



第6回運動部・文化部の表彰式

11月18日（月）に、中高の全校朝礼で10・11月に大会などで活躍した運動部や文化部の表彰をしました。

詳細は、本校のホームページに掲載されていますのでご覧下さい。

今回の表彰は、彼らの日頃の地道な努力の成果の一端です。

彼らの最終目標は、大会で優勝することにあるのでしょうか。優勝の先に何があるのでしょうか。

彼らはそれぞれの夢や目標、志に向かって、階段を一段、また一段と上っています。

毎日、当たり前前を真面目に一生懸命に取り組んでいると、それを見てくれている人が必ずいます。応援してくれる人の輪がだんだん大きくなります。そういう人たちが応援してくれることで力が入ります。自分だけの力だけでなく、多くの人たちの力が今の自分を作っています。

3カ年あるいは6カ年後に、後を振り返ったときの足跡が、君たちの成長の証です。



習慣とは、継続する努力をしなくても、無意識に続けられる行いです。

本の紹介

小学校の運動会のことです。

何をやってもいつもビリの翔子ちゃんは、徒競走でもビリを走っていました。ところが、前を走っていた子がころんでしまったのです。

「これでビリがまぬがれる！」

と、泰子さんは身を乗り出してさげびました。

「翔子、頑張れ！ 追い抜くのよ！」

翔子ちゃんはころんだ子の横をかけぬけていきました。

このままゆけば、初めてビリでなくなります。

「さあ、走れ、翔子！」

泰子さんは思わず声をはりあげました。

ところが、どうしたのでしょうか。翔子ちゃんが急に立ち止まったのです。そして、ゴールとは反対の方へ走り出しました。

ころんだ子のところへもどったのです。

翔子ちゃんはその子に何か声をかけ、手を差しのべると、助けおこして、そのまま手をとって、いっしょにゴールインしました。

というわけで、翔子ちゃんはまたまたビリでした。

しかし、会場から大きな拍手がわきました。

泰子さんは、思いがけない翔子ちゃんの行動に、頭を「ガーン！」とたたかれたような気がしました。

翔子ちゃんは競争に勝つことより、友だちを気づかうことの方を選んだのです。しかし、それは人にほめてもらいたくてしたのではなく、ごく自然にそうしたのです。泰子さんは思わずつぶやきました。

「翔子、あなた、えらいわ。追い抜け、追い抜けてさげんでいたお母さんははずかしい」

翔子ちゃんは人と争う気持ちがありません。ゲームをしていても、相手のことを気づかって勝てません。いっしょに遊べただけでうれしいのです。

「翔子はもう大人だけど、おさない子どもみたい」と、翔子さんは思います。

「普通の人には大人になるにつれて、ずるくなったり、欲ばりになったり、人をうらやんだり、しっとしたりするけれど、翔子は子どものまま。純粹でうたがうことを知らない」

出典『希望の筆』ダウン症の書家・金澤翔子物語 丘修三



「ダウン症」：体の中にある23組の染色体のうち、21番目の染色体が、なんらかの原因で普通より1本多いことによっておこる。この一組の染色体異常によって、からだの発達だけでなく、ことばや知能の発達までおくれしてしまう。

ふわふわ言葉とチクチク言葉～美しい言葉を使おう～

NHKが、日本語の美しい言葉についてアンケート調査をしました。その結果、第1位は「ありがとう」、第2位は「さようなら」、第3位は「はい」、第4位は「すみません」、第5位は「おはようございます」でした。

校舎内を歩いていると、時々イヤな言葉を耳にします。人を不快にさせる言葉です。

先日ある講演会で、「ふわふわ言葉」と「チクチク言葉」があるというお話を聞きました。

ふわふわ言葉

- ・ありがとう・大丈夫・ファイト・すごいね
- ・ナイス・かっこいい・あなたのおかげ
- ・手伝うことはない？・一緒にやろう
- ・笑顔が素敵・サンキュウ・頑張ろう
- ・あいさつの言葉

チクチク言葉

- ・死ね・バカ・あほ・きもい・きしょい
- ・うざい・ボケ・消えろ・殺すぞ・どけ
- ・まぬけ・デブ・チビ・ブス・嫌い

「ふわふわ言葉」は、自分が言われてうれしい言葉、言われた人が嬉しくなる言葉、優しい言葉、です。

「チクチク言葉」は、言われて嫌な気持ちになる言葉、暴力的な言葉、人を傷つける言葉、不愉快な言葉、です。

「あったか言葉とチクチク言葉」(著 佐藤拓)という本に書かれている一部(抜粋)を紹介します

もう言葉に無頓着ではられない。

「うざい」「きもい」「死ね」「消えろ」これが現在の四大悪言だと言われている。若者や子どもたちの世界で、これらの暴力的な言葉がひんぱんに飛び交っている。いじめの道具ともなっている。～中略～

「うざい」「きもい」「死ね」「消えろ」と言われて不愉快に思わない者はいない。むしろ言い方にもよるだろうが、基本的にこれらは相手を攻撃するときを使う言葉である。そうである以上、大なり小なり言葉を発する側に相手を痛めつけようという意思があり、そのため、受け手側は往々にして、心にダメージを受け、ある時は反発し、さらに、強い言葉でもって反撃しようとする。～中略～

しかし、子どもたちの言葉遣いで、根が深い問題なのは、いじめなどに関与していない普通の子が、暴力的な言葉をあまり意識せずに、日常的に使っているところにある。

学校というところは、仲間どうしがお互いに励まし合って学ぶ場です。「ふわふわ言葉」で、お互いが言われて嬉しくなる言葉、励まし勇気づけられる言葉で、楽しい学校生活を送りましょう。